

# ポローニア

## paulownia



絵:「ともだち」(附属久里浜特別支援学校 小学部5年制作)

### 目次

#### 教育局次長挨拶

巻頭言「スポーツの祭典」◆松本末男……………2

リオデジャネイロパラリンピック(水泳競技大会)に参加して  
◆寺西真人……………2

第9回 国際アビリンピックフランス大会【歯科技工競技】  
金賞受賞 ◆奥野功三……………3

小山教諭(桐が丘)ラート世界選手権で銀メダル  
◆西垣昌欣……………3

附属桐が丘 全国特別支援学校ボッチャ大会で優勝  
◆松浦孝明……………4

リベンジ ◆芝田順之介……………4

私の目標～世界戦出場を目指して～ ◆高橋吹歌……………4

努力が実った! 関東大会男子3年100m出場 ◆長岡 樹……………4

今度は僕が代表として国を背負う番です ◆曾根典夫……………5

IT夢コンテスト2016で最優秀賞を受賞しました  
◆佐々木高一……………5

第2回黒姫高原共同生活を振り返って  
◆運営委員会・実行委員会……………6

附属久里浜 小学部5年 三浦の宿泊学習  
◆高尾政代……………7

附属学校教育局主催「公開教員研修会」  
附属学校研究発表会……………8



# スポーツの祭典

筑波大学 附属学校教育局 次長 松本末男



SUEO  
MATSUMOTO

今年の夏は、リオのオリンピック・パラリンピックで大いに盛り上がった。テレビに釘付けになったと思う。リオには筑波大学から多くの関係者が参加した。中でも附属学校の卒業生、教員がパラリンピックで大活躍してくれたことは、とても嬉しいことだ。ロンドン以降、パラリンピックに世界各国が力を入れ、国を挙げて選手を養成している。特に中国のメダル獲得数には驚いた。日本はロンドン大会で金を取った種目もリオではなかなか金メダルに届かず、個人で努力することの限界や設備などの環境の差も感じた。大活躍した視覚特別支援学校の卒業生の中に木村さんがいる。4個のメダルを取り、最後の200m個人メドレーで惜しくも4位になった後、インタビューで、開口一番「つかれたあ」と話していたことが印象的だった。本当に全力で泳いだのだと思う。附属視覚特別支援学校のプールの長さは12mしかなく、体育の教師であり、全日本の水泳コーチでもある寺西先生が、自嘲気味に「うちの子たちはターンはとても上手です。」と話してくださったことを思い出す。附属視覚特別支援学校で、是非いつの日か50mプールができて生徒たちが思う存分練習できて、パラリンピックでメダルを獲得してほしい。

また、ボッチャ競技で厳しい戦いの中、銀メダルを獲得した姿に胸がジンときた。鳥肌が立つようなコントロールに、人間の可能性と限界、努力をする大切さに思いを馳せた。



レース直後、プールサイドにて

## リオデジャネイロパラリンピック(水泳競技大会)に参加して

附属視覚特別支援学校 教諭 寺西真人

今回も日本選手団水泳チームのコーチとして参加をさせていただいた。選手団コーチとして、アテネ、北京、ロンドンに続き4

回目になる。パラリンピックには1992年のバルセロナから選手を送り続けてきた。今までは在校生と一緒に参加できたが、今回は卒業生との参加で正直寂しい気持ちがあった。世界の競技レベルが上がり、学校でのクラブ活動の延長上では参加できないレベルになってしまった事が原因である。

本校中学部・高等部卒業の木村敬一(日本大学・東京ガス)は、水泳競技で銀2個、銅2個のメダルを獲得することが出来た。高3で北京大会に参加、大学生の時にロンドン大会で銀1、銅1の2個のメダルを獲得していて、今回は金メダルを狙っていた。

会場での感想は、ブラジル人の熱い応援が印象に残っている。スポーツ観戦の楽しみ方を熟知しているのかも知れない。ブラジルの選手がメダル争いの時は特に物凄い声援が起こり、また最後の選手がゴールする時や他国の選手でも世界記録に近い時には、惜しめない拍手と歓声が上がった。

2020年東京ではこんな雰囲気になるのだろうか。選手側の強化・育成も大切だが、見る側やまた運営・ボランティアに対してもまだまだ準備することが多いとも感じた。自分の夢はパラリンピックの会場が満員で、その中で「君が代」を聞きたいと思っている。その為に一つでも出来ることをやっていきたい。

今回のリオデジャネイロパラリンピックはテレビ放映された関係で、多くの人にパラリンピックを知っていただけた事ができた。特に小学生・中学生には不自由なことがあっても工夫をして頑張っている様子を見て、勇気や元気が出てきていたら嬉しく思う。



木村敬一選手と銀メダル





安倍晋三内閣総理大臣への表敬訪問

## 第9回 国際アビリンピックフランス大会 【歯科技工競技】金賞受賞

附属聴覚特別支援学校 奥野功三  
高等部専攻科歯科技工科主任

国際アビリンピックとは、障害者の職業的自立の喚起や障害者雇用、一般社会への啓蒙、障害者間の国際親善等を目的として4年に1回開催される大会です。1981年（昭和56年）の国際障害者年を記念して、日本の提唱により、同年、1回目が東京で開催されました。

第9回国際アビリンピックは、2016年3月、フランス・ボルドーで開催され、35カ国・地域から選手が参加、48種目の競技が行われました。日本からは17種目に31人の選手が派遣されました。

フランス大会歯科技工競技には、日本代表選手として、附属聴覚特別支援学校高等部専攻科歯科技工科を修了した柳本

佑（やなぎもと たすく）さんが出場しました。柳本さんは、歯科技工科で学んだことをもとに、これまで歯科技工士として磨いてきた技を存分に発揮し、最高位である金賞を受賞しました。

アビリンピック歯科技工競技金賞を受賞した柳本さんは「この受賞は、聴覚障害歯科技工士にとって誇りと自信をもつことにつながりました。今後さらに仕事に精進していきたいと思えます。たくさんの方々から応援いただいたことに感謝いたします。」と話していました。附属聴覚特別支援学校の教職員が大いに盛り上がったことは勿論のこと、現在、歯科技工科で学んでいる後輩にも大きな影響を与えました。



歯科技工競技表彰式（中央は柳本さん）

歯科技工競技の様子



安倍晋三内閣総理大臣への表敬訪問

アビリンピック開催の意義は、聴覚障害者のみならず他障害を持つ方々にとっても、大きな励みになっていることは間違いありません。今後益々のご支援をお願いいたします。

## 小山教諭(桐が丘) ラート世界選手権で銀メダル

附属桐が丘特別支援学校 副校長 西垣昌欣

附属桐が丘特別支援学校の小山信博教諭（理科を担当）が、6月下旬にアメリカ・シンシナティで開かれた第12回世界ラート競技選手権大会に出場し、シニア団体（男女混合）で見事銀メダルを獲得しました。ラートとは鉄の輪を使って体操する競技で、直転、斜転、跳躍の3種目があります。小山教諭は日本代表チームのキャプテンを務め、今回のメダル獲得に貢献し、個人でも種目別の斜転（2本の輪の一方だけを接地させて回転する種目）で5位、総合で6位入賞を果たしました。

小山教諭には、筑波大学在学時に出場した第7回大会でも跳躍（回転する鉄の輪を越えたり、上で宙返りしたりする種目）で銀メダルを獲得した実績がありますが、教職に就いてからは勤務に専念する毎日。ほとんど練習できない環境のなかで、自己管理を徹底し、授業準備や研究活動にも

力を抜かず取り組み、その上で作りだしたわずかな時間を練習に充てて、今回の成績を収めました。

小山教諭が現在担任を務めている高等部2年の学級には、陸上の国際大会に出場している生徒もあり、選手として競技に挑戦する姿を見たいという想いも強かった今回の世界選手権。しっかり結果を出し、在校児童生徒の大きな励みにもなりました。

私も一度練習風景を覗く機会がありましたが、183cmの長身を生かした演技はダイナミックで、身長を超すラート（鉄の輪）が回転する様はかなりの迫力です。輪の中に身を置く小山教諭の体幹が、すごく鍛え上げられていることもよくわかりました。

ただ本人は、今回の成績に満足しておらず、世界選手権の話になると決勝で犯したミスは今でも悔いており、次回に雪辱を果たしたいとのこと。「アンチエイジングが趣味」だそうなので、若い選手に負けないう、これからも（けがは絶対しないで）挑戦を続けてほしいと思います。





# 附属桐が丘 全国特別支援学校ボッチャ大会で優勝

附属桐が丘特別支援学校 主幹教諭 松浦 孝明

全国特別支援学校ボッチャ大会（ボッチャ甲子園）が8月2日（火）に、BumB東京スポーツ文化会館で開催されました。ボッチャとは、赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げてジャックボール（目標球）にいかに近づけるかを競います。最も重度な肢体不自由を有する人たちが参加できるパラリンピックの正式種目にもなっています。大会には東京の10校の他、福島、千葉、神奈川、愛知、大阪、奈良、大分、熊本などから18チームが出場。桐が丘特別支援学校は高等部2年生の金子恭兵君、松本亮大君、大村直輝君、眞神颯太君の4名が参加し、3人一組のチーム戦を戦いました。本校は、予選リーグを全勝で決勝トーナメントに進出。準決勝では都立町田の丘学園に延長戦の末に勝利して決勝戦に駒を進めました。決勝戦では都立城北特別支援学校に第1エンドで1点を先取。第2エンドは一投ごと優勢なチーム

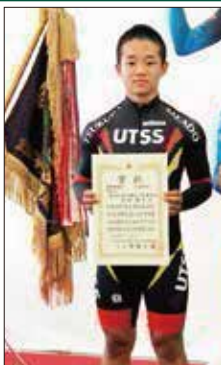
が変わるシーソーゲームの展開になりましたが、桐が丘の眞神選手が投げた最後の一球が味方のボールをジャックボールにピタリと押し当てる劇的な勝利を収め、初代チャンピオンの座につきました。この大会に出場した選手たちが2020年東京パラリンピックで活躍することを期待しています。



## 附属坂戸高等学校

### リベンジ

選手名：芝田 順之介（総合学科2年）  
期 日：平成28年7月29日  
大会名：全国高等学校総合体育大会  
自転車競技選手権大会  
会 場：鳥取県倉吉市（倉吉自転車競技場）  
種 目：4km速度競走  
結 果：第4位



はじめての全国大会、強豪選手との戦いを前に予選・準決勝は、ただ、がむしゃらに走るだけでした。しかし、決勝戦は少し落ち着きを取り戻してレースに臨みましたが、結果は4位入賞で終わってしまいました。これからは様々な問題点を克服し来年こそ優勝を目指して頑張りたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。（芝田順之介）

### 私の目標 ～世界戦出場を目指して～

選手名：高橋 吹歌（総合学科1年）  
期 日：平成28年8月20日  
大会名：JOCジュニアオリンピック  
自転車競技選手権大会  
会 場：静岡県伊豆市（ペドロローム）  
種 目：女子U17 2km個人パシュート  
結 果：第2位



この大会はジュニアアジア選手権・ジュニア世界選手権の強化指定選手選考会も兼ねた大事な大会でした。この大きな舞台で2位という結果が出せて少し自信ができました。

まだまだ反省点は沢山ありますが、ひとつ、ひとつ確実に改善し、アジア戦・世界戦出場を目標に日々努力していきたいと思っています。これからも応援よろしくお願いします。（高橋吹歌）

# 努力が実った！ 関東大会男子3年100m出場

附属中学校 教諭 陸上競技部顧問 長岡 樹

平成28年8月9日、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場での関東中学校陸上競技大会男子3年100mに出場しました。当日は約40度の炎天下で、11秒31（追い風2.4m）の



自己ベストを叩き出しました。1種目3人という厳しい東京都代表選手の枠を予選会で勝ち取り、大舞台で走ることができました。努力を継続した成果であります。彼の感想が何よりもそれを物語っています。

2000名を超すTEAM TOKYOの応援団による名前のコールの大声援、大型スクリーンに映し出されたリプレイの映像、そして10秒台の選手たちのものすごいスピードを肌で感じられたことに、いつもの大会とは違う感動を覚え興奮した。

3年間の中には辛く苦しい時期も多くあった。しかし、努力の成果が数字で表れるということに魅力を感じ、3年間走り続けることができた。僕を支えてくれた部活の仲間や先輩、先生方に感謝を伝えたい。

タカズミ  
（附属中学校3年 小林隼純）



カナダの生徒と  
その受け入れ生徒たち

## 今度は僕が代表として 国を背負う番です

附属高等学校 教諭 曾根典夫

今年4月、「G7ジュニアサミット東京プログラム」が開催され、7カ国14名の高校生たちが本校に来校しました。

このプログラムで各国代表の生徒は、本校の授業に参加、また記念植樹も行い、本校生徒と共に首相官邸に安倍晋三総理を表敬訪問しました。東京での宿泊は本校生徒の自宅にホームステイで行われ、これらのプログラムは、将来グローバルに活躍をしたいと考えている生徒達の心にも大きく影響を与えました。

授業体験では、ジュニアサミットの生徒たちと本校生徒が様々な議論をしました。特に、各国の「古典」の授業内容についての話し合いでは、まずジュニアサミットの生徒たちが議論の口火を切ったことで、本校生徒もこれに啓発されるように議論が活発化しました。ともすると遠慮しがちな日本の高校生たちの前で、堂々と臆することなく自分の考えをはっきりと論ずる姿に、「これが世界を相手にする高校生なのか」と、生徒達は少なからず影響を受け、目を見張った瞬間でもありました。

ホームステイにおいては、日常生活の細かな一面においても、ジュニアサミットの生徒の意識の高さに驚いたようです。普段の商店での買物だけでなく、ディズニーランドのお土産売り場ですらエコバックを使う彼らの環境問題に対する徹底した意識のあり様に感心したようでした。

高校生という多感なこの時期に、このような貴重なプログラムを体験できたことは、本校生徒だけでなく、参加したすべての高校生にとって一生の宝物となったことでしょう。様々な国の人との出会いが、彼らの視野を広げてくれたようです。このプログラムに参加した本校生徒の感想を紹介します。

「今回のようなプログラムに参加することで世界中にコミュニティの輪が広がっていくと思います。僕は今年の夏APYLSに参加します。今度は僕が代表として国を背負う番です。(竹俣太郎)」今後、世界で大きく羽ばたいてくれる生徒達の活躍が目に見えます。



体験授業の一場面

学校到着・歓迎式へ



## IT夢コンテスト2016で 最優秀賞を受賞しました

附属桐が丘特別支援学校 教諭 佐々木高一

「IT夢コンテスト」とは、全国の中学生・高校生・高専生(3年生以下)を対象に、IT(情報技術)で実現できる未来の社会や新たなサービス等に関する夢を語り、ITに対する理解や興味を高め、創造力・問題発見能力・コミュニケーション能力を高めるというコンテストです。

このパンフレットが届き、高3の担当学級で紹介すると、2人の生徒が興味を持ちました。この生徒たちは肢体不自由があり、学習する上で困ることが多いものの、iPad等のITを活用した工夫をしています。そして、自分たちを助けてくれているITをより発展させ、障害者をはじめ、困りを抱えている方々が過ごしやすい世の中にしたいという想いを持っています。その想いを具体的にし、将来やりたいことを明確にするため、共同でアイデアをまとめてコンテストに応募することにしました。

自分たちが日頃感じている不便さを振り返りながら、「バリアフリー・トレイン ～未来の誰もが乗り降りしやすい電車～」という、車いすユーザーが電車を利用する際に問題となる、ホームと電車の間に隙間があることの危険や、乗車までに時間がかかること等を解決する方法と、高齢者、ベビーカー使用者、足にケガをした人等にも応用していくアイデアをまとめました。

6月下旬に1次審査があり、43校から242件の応募作品の中、準決勝進出35作品に選ばれました。準決勝・決勝は7月30日に神奈川工科大学で行われました。準決勝も通過し、決勝10作品に残りました。決勝でのプレゼンテーションでは、練習の成果を存分に発揮し、見事、最優秀賞を得ることができました。

この経験は生徒たちにとって大きな自信になりました。また、自らの障害者という視点や経験を活かすことが、より良い社会づくりにつながるということを実感しました。将来、このアイデアを実現していけるように、これからも学び続けてほしいと思います。

なお、決勝のプレゼンテーションの様子はIT夢コンテスト2016のホームページで公開されていますので、興味がある方はご覧ください(<http://yumecon.ic.kanagawa-it.ac.jp/>)。







## 第2回 黒姫高原共同生活を振り返って

黒姫高原共同生活運営委員会(教職員)・実行委員会(児童生徒)

(左:「しおりの表紙」大塚特別支援学校の児童生徒制作)

昨年に引き続き今年の夏(7月27～29日)も、筑波大学附属学校群の児童生徒が黒姫高原で共同生活を行いました。参加校が1校、参加者数が20名も増え、聴覚・大塚・桐が丘の特別支援学校、小学校、中学校、高等学校、駒場高等学校、坂戸高等学校の8校から、9～18歳の児童生徒73名が参加しました。

この企画は、文部科学省の「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」のメイン企画の一つとして、様々な障害のある児童と生徒が、共同生活やアダプテッドスポーツを通して多彩な交流活動を展開し、心のバリアフリーに対する意識の向上や個性の尊重と伸張を目指したものです。

5月28日に第1回黒姫高原共同生活実行委員会(児童と生徒で組織された委員会)を開催。企画と運営を希望する児童生徒が約30名も集合し、満員の会場に教職員も嬉しい悲鳴。委員長に大石周君(聴覚特別支援学校)、副委員長に野沢ほのかさん(坂戸高等学校)を選出(どちらも立候補)し、校種や年齢の枠を越えた企画と運営がスタートを切りました。7月25日には各附属からの参加者が附属高校の桐陰会館(同窓会館)に集い、学校紹介と事前交流会で児童生徒の心はすでに黒姫高原へ。



それでは、黒姫山麓の大自然と優しい心に抱かれた、2泊3日の共同生活の行程を紹介します。

《1日目》集合—バス移動(バス内交流)—ホテル到着—開校式—【館内オリエンテーション】—【野外炊飯】—【館内レクリエーション】—就寝

《2日目》起床—朝のラジオ体操(イングリッシュ版)—朝食—【森のアドベンチャー】—昼食—【アイスクリームづくり・思い出の作品づくり】—夕食—【キャンドルファイヤー・花火・星空観察】—就寝

《3日目》起床—朝のラジオ体操(ドラえもん版)—朝食—【ナウマンゾウ博物館見学】—バス移動—到着—閉校式

### 児童生徒の声

【大石周委員長:聴覚特別支援】普段、交わることのない障がい者と健常者。今回の黒姫高原共同生活は、その二つが直接交流できる大きな行事だったと思う。積極的に行動をとることが大事だと改めて気づかされた。もしかしたら今の社会には障がい者や健常者がお互いを理解しあい助け合おうという協調性や、いろんな意味でのバリアフリーが必要なのかもしれない。

【野沢ほのか副委員長:坂戸高校】みんな私以上にしっかりと働いてくれました。すべての企画で実行委員をチーム制にして会議を進め、スムーズに運営できて良かったと思っています。ちょっと不備があった企画もありましたが、その時は皆で機転を利かせて楽しく過ごす3日間となりました。共同生活が終わっても、児童生徒同士の交流はいまでも続いています。



【大塚特別支援】カレーをつくりました。森のアドベンチャーぼうけんコースにいきました。みんなとねました。おともだちができました。またいきたいね。／楽しかったことは、川に入ったこと、キャンドルファイヤー、ナウマンゾウの鳴き声、お兄さんとお風呂に入ったこと…。

【桐が丘特別支援】ぼくはたくさん友達ができて楽しく過ごせたので、みんなと別れるのが悲しくて泣いてしまいました。また皆さんに会いたいです。

【小学校】力を合わせて野外炊飯、おいしかった。夜空一杯に広がった打ち上げ花火、あの輝きは絶対に忘れない。たくさん手話を教えてもらいました。心が通じ合えばコミュニケーションができる。

【中学校】わたしにとって黒姫は、人生の視点を変えた有意義な合宿。多くの人が自分と同じ経験をすれば、障害に対してもっと優しい世の中になると思いました。

【高校】障がいを持っている人は、健常者の少しの手助けでできる事や感じられる事が非常に大きくなります。これからの自分がどのように生活していけば良いかを考えることができた貴重な経験だった。

【駒場高校】障害者との共同生活で相手の気持ちを読み取る力、周りを見る力が少しついたと思います。障害者はどういう人たちが、何を必要としているのかについて感じ考えるいい機会になりました。



# 附属久里浜 小学部5年 三浦の宿泊学習

附属久里浜特別支援学校 教諭 高尾政代

今回、児童生徒たちは4～5名構成の「生活班」で寝食を共にし、約15名構成（児童生徒約10名+教職員約5名）の「行動班」で様々な企画に挑み、校種や年齢を越えて盛んに交流しました。



初日夕刻からの【野外炊飯】で「行動班」の活動がスタート。曇天の中、カレーづくりともう一品（クリームシチューかポトフ）に挑戦。まず自己紹介と役割分担を済ませ、火

起こし・下ごしらえ・煮炊きと進みましたが、完成間近で大粒の雨が。急遽、鍋と共に2階のレストランに避難し、やっと夕食へ。煙と雨にまみれた野外炊飯でしたが、みんなの顔はなぜか笑顔一杯。



2日目は企画満載の1日でした。まずは午前中すべての時間を使って、【森のアドベンチャー】に挑戦。大自然に抱かれた黒姫山山麓のもと、信州自然大学のインストラクターの案内で、散策コース（ウッド舗道）と冒険コース（森の中に入る）に分かれて、黒姫高原の自然を堪能しました。



午後は2グループに分かれ、時間をかけて【アイスクリームづくり】と【思い出の作品づくり】。個性豊かなオンリーワンの作品が完成しました。



外は夕食の頃から土砂降り。実行委員会最大の見せ場【キャンプファイヤー】は中止。しかし、落胆の顔色ひとつ見せずに、急遽3Fレストランでの【キャンドルファイヤー】へ。実行委員の連携と協働作業で、神の子たちのキャンドル点火、各校の出し物（ダンス・演奏・ジャグリング・ものまね）、ゲーム（じゃんけん列車）、そしてフィナーレは練習を重ねて



きた手話付きの全員合唱「ビリーブ」。ここでサプライズが。雨は上がり、ホテルの計らいで、フロント前の駐車場で打ち上げ花火。さらに雲は晴れ、北斗七星・カシオペア座・北極星が鮮やかに出現。その横を流れ星が…。自然とのふれあい、人との出会い、忘れられない感動的な一日が静かに幕を下ろしました。



♪「シーカヤックにキャンドル、ピザづくりしようよ。三浦の宿泊、楽しそうな予感。」

これは、6月23～24日に行った宿泊学習のテーマソングの一部です。

本校小学部では、年に1回宿泊学習を実施します。1～4年生は学校内で、5年生は校外です。場所は神奈川県三浦市にある三浦ふれあいの村です。6年生は、修学旅行を経験します。6年間を通して、段階的に宿泊学習を進めていきます。

今年の5年生は好奇心旺盛な元気のいい男の子4人です。子供たちは、宿泊学習に向けて、図工の時間にキャンドルサービス用のキャンドルを作りました。ろうを砕いて溶かして、好きな色の粉を入れてきれいに仕上げました。それから、学級の畑で栽培した枝豆を使ってピザ作りをしました。テーマソングもギターの伴奏で何度も歌いました。さあ、準備は万端。だけど、シーカヤックに乗るのは初めてです。そして、ふれあいの村も初めてです。ちょっと不安もありました。

当日は雨。雨が上がるのを待って、波打ち際でシーカヤックに乗りました。ザブーンと波と一緒に上下に揺れました。「ちょっと怖かったけど楽しかった。」とある子供が言いました。夜のキャンドルサービスでは、作ったろうそくにみんなで火を点けて、テーマソングを歌いました。



部屋は2段ベッド。上から下の友達をのぞいていると、楽しくなって、なかなか寝付けませんでした。

次の日はピザづくり。お店の人に作り方を教えてもらって、おいしいピザができました。たくさん食べて、残りはおうちの人へのお土産にしました。



あれから3か月経ちました。「シーカヤックに…」と笑顔で歌い出す子がいます。おうちで上手にピザを作った子もいます。三浦ではちょっと泣いたけど、夏休みにお泊りに挑戦した子もいました。今年は本校にもプールができ、みんなで三浦の海で遊んだように水遊びや泳ぎを楽しみました。

三浦の宿泊は予感通り、みんなの楽しい思い出になりました。

## 平成28年度 筑波大学附属学校教育局 主催 「公開教員研修会」

平成28年度筑波大学附属学校教育局主催「公開教員研修会」を、次の要領で開催いたします。

**1.日 時:**平成29年 2月25日(土) 10:00~12:10<sup>予定</sup>

**2.場 所:**筑波大学東京キャンパス文京校舎 (東京都文京区大塚 3-29-1)

### 3.プログラム

司会／附属学校教育局 教授 江口勇治

開会の辞……………附属学校教育局 教授 江口勇治

教育長挨拶……………附属学校教育局 教育長 宮本信也

講 演……………「子どもの病的な不安の理解と対応」  
青山学院大学 教授 古荘純一  
講演後質疑応答

閉会の辞……………附属学校教育局 次長 松本末男

**4.参加費** 無料

**5.申込締切** 平成29年1月31日(火)

**6.対 象** 筑波大学教職員及び学外教育関係者

#### 申し込み・お問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1  
筑波大学東京キャンパス事務部 学校支援課 教職員・学事担当  
TEL:03-3942-6809 FAX:03-3942-6911

## 平成28年度 筑波大学附属学校研究発表会

附属学校教育局では、平成28年度研究発表会を次の要領で開催いたします。本学の附属学校及び附属学校教育局における日頃の研究成果を発表し、皆様方にご理解をいただくとともに、今後の教育研究活動の一助としていただければと考えております。

**日 時:**平成29年2月25日(土) 13:10~17:10<sup>予定</sup>

**場 所:**筑波大学東京キャンパス文京校舎 (東京都文京区大塚 3-29-1)

詳細については、今後、附属学校教育局ホームページ  
<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/> にアップします。  
ご確認ください。

#### ●広報誌名「ポローニア」の由来

「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia（後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む）こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名(Paulownia imperialis)に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。

ポローニア  
paulownia

vol.37

発行日……………平成28(2016)年10月31日

発行者……………附属学校教育局教育長 宮本信也

発行所……………筑波大学附属学校教育局 広報誌  
広報戦略推進委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 電話 03-3942-6800

デザイン……………スピーチ・バルーン

印刷……………広研印刷 使用紙:Ulitimax [日本製紙]

